

不具合事例

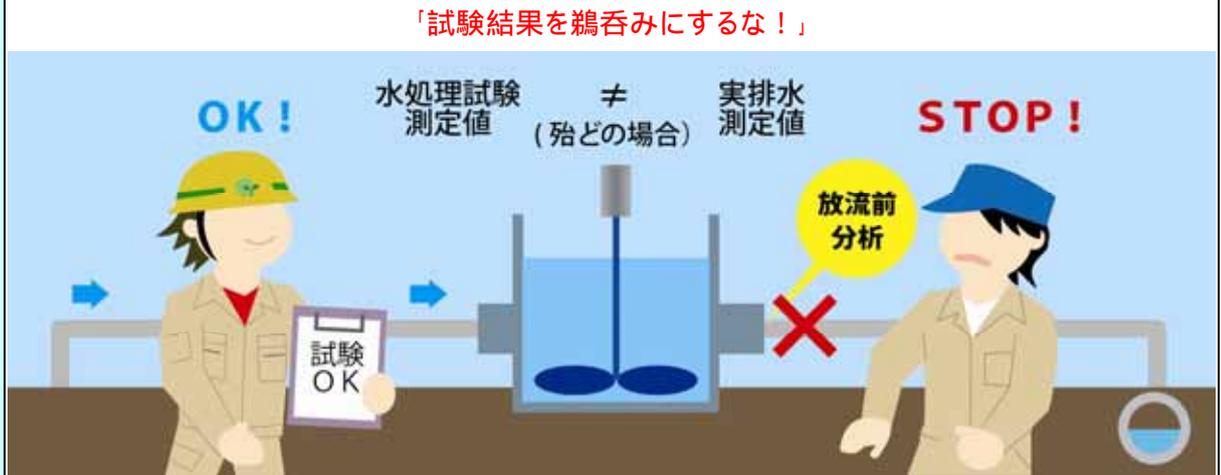
整理番号 T-04-002

タイトル	水処理試験用サンプルと実排水の性状が違った！		
工種	<input type="checkbox"/> 調査 <input checked="" type="checkbox"/> 対策	フェーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 計画 <input type="checkbox"/> 作業中
対象汚染物質	第一種特定有害物質、第二種特定有害物質、第三種特定有害物質、油類		
土地履歴	<input type="checkbox"/> 宅地 <input checked="" type="checkbox"/> 工場跡地 <input checked="" type="checkbox"/> 特定有害物質使用工場 <input type="checkbox"/> その他		
説明図	<p style="text-align: center; color: red;">「試験結果を鵜呑みにするな！」</p>		
作業内容	水処理（釜場排水、揚水処理等）		
使用機器	水処理設備		
不具合事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・汚染土壌の処理現場において発生した排水を処理するために、事前に室内にて現地の排水を分析した。 ・この時の分析値は問題がない値であったが、実際に発生した排水は性状が異なっていて、処理できなかった。 			
予防措置（計画者・監督者・作業員）			
<ul style="list-style-type: none"> ・事前の室内実験は、複数地点、複数回数採取などデータのより正確な取得を行う。（計画者・監督者） ・水処理試験結果に対して安全率を考慮した水処理設備の計画を行う。（計画者・監督者） 			
応急措置			
<ul style="list-style-type: none"> ・放流を中断して、水処理計画の見直しを行う。 			
その他、留意事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・試運転時には、放流前にノッチタンク等に実排水を一時貯留して、性状分析を行う。 ・定期的（頻度は要検討）に排水のモニタリングを行う。 ・特に掘削部の釜場排水による排水は常に同一の性状であるとは限らないので、安全率を設ける必要がある。また、他の水処理の実績を参考にして計画するのも有効である。 ・有害物質については、物質によっては簡易分析（現地分析）できるものがあるので、出来る限り頻度を多くして分析することで、性状変化に敏速に対応できる。 			
関連法規等、出典			
キーワード	水処理 モニタリング 分析 採水 安全率 井戸 洗浄		
発生頻度	<input type="checkbox"/> 多 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 少	重大性	<input type="checkbox"/> 致命的 <input checked="" type="checkbox"/> 重大 <input type="checkbox"/> 軽微

タイトル

水処理試験用サンプルと実排水の性状が違った！

説明図



作業内容

水処理（釜場排水、揚水処理等）

指示事項

- ・放流前に管理項目について必ず確認（試験）し、放流基準値を満足していることを確認してから放流すること。
- ・実処理に際しては、異常時（濁度、pH、簡易分析結果が管理値を超過した時等）はすぐに連絡すること。

どんな不具合が起こりうるか？

だから私たちはこうします

本日の重点施策

ヨシ!!

サイン